

横浜市立旭北中学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度			共通取組 重点取組	平成26年度			共通取組 重点取組	平成27年度					
	具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括			
1 確かな 学力	・相互授業参観、教科会を通して子どもたちの強みと課題を明らかにし、指導の改善を検討する。	・生徒による授業評価もあり、自身の授業を省みる機会があり、授業改善の工夫・試みを進めることができた。今後も、継続していきたい。	B	1 確かな 学力	・生徒の授業評価の継続及び相互授業参観、小中授業参観・研究協議を充実させ、子どもたちの学力向上を図っていく。	・授業評価、小中授業参観・研究協議は定着してきた。教員同士が指導法などについて意見交換し、授業改善を通して効果的な学習指導につながった。次年度も継続していく。	B	1 確かな 学力	・生徒の授業評価を引き続き行い、分析の結果を検証するため、相互授業参観の機会を複数回設定し、生徒の学力向上をはかる。	授業評価は2度行った。相互参観により、授業を振り返る機会が増え、新しいことをして、改善につなげようとする気運が高まった。教科によって1人しか参観できない場合を改善したい。	A			
	2 豊かな心	・全校道徳を1回以上行い、子どもたちの人権意識の高揚を図る。	・朝会の講話や人権作文など全校道徳として取り組めた。子どもたちも少しずつ意識するようになってきた。		C	2 豊かな心	・全校道徳の充実と朝会や集会等を通して人権教育の推進を図る。人権教育推進校として小学校との連携を推進する。		・人権講演会等を通して人権意識を高めることができた。小学校との連携では地域の共通する課題について共有することができた。	B	2 豊かな心	・人権推進校として小学校と連携しながら地域で育てたい子供の姿や課題を共有するとともに、自尊感情や自己肯定感の育成についても検討し、道徳教育などに活かす。	グループワークトレーニング等を通して、自分の考えや活動が認められる場面が増えた。小中で子どもの現状と育てたい姿を共有することができた。	B
	3 健やかな 体	・体育祭や球技大会の企画・運営を生徒自らが引き、運動の楽しさを味わえる取組を行う。	・「自ら」といっても指導の力によるところが大きいと思うが、取り組みは十分にできていた。生徒にとって分かりやすい目標を持たせていきたい。		B	3 健やかな 体	・体育祭、球技大会の運営を生徒自身に考えさせ、企画力を高める。保健指導や教科指導の充実を図り、運動する生徒を増やしていく。		・企画については不十分なところもあったが、チーム作りや作戦等の運営は自主的に行うことができた。保健指導、教科指導は充実させることができ、運動する生徒は少しずつ増えている。	B	3 健やかな 体	・体育祭の運営について、生徒自身に考えさせる機会を増やし、企画力を高める。保健指導や教科指導のさらなる充実をはかり、運動する生徒を引き続き増やしていく。	生徒の企画委員会に携わり、生徒全員が運動できるような種目を検討し実施した。また保体の授業や学級活動で、体育祭に向けて練習が行われ、意識は高まった。更に子どもたちの手で作る体育祭にしていきたいために、事前指導の充実が必要に思う。	B
	4 教育課程 学習指導	・小中一貫カリキュラムをもとに基礎・発展・補充を取り入れた指導を行い、生徒の授業評価を2回行います。	・授業評価については、予定通り行うことができた。これらを分析してより良い指導法を構築していきたい。基礎・補充は意識して行えたが、発展については研究が必要と感じた。		B	4 教育課程 学習指導	・生徒の授業評価の継続とその分析を各教科で行い、その結果を授業改善に生かしていく。教材研究を充実させ、基礎・基本的内容の定着を図っていく。		・授業評価の実施及び分析は各教科で行うことができた。それを基に意識して授業改善に取り組む教員が増えてきた。	B	4 教育課程 学習指導	・生徒の授業評価の分析結果を検証することも含め、より計画的に行い、それを授業に活かせるよう意識向上をはかる。	授業評価が授業を見直すきっかけになり、授業力向上、学力向上に役立っている。教科会がもっと定期的に開催されていれば、よりきめ細かな配慮ができると思われる。	A
	5 児童生徒 指導	・年2回以上の教育相談を学級担任中心で実施するとともに、全教職員で日時様的な生徒理解に努めます。・いじめについての実態把握と早期対応を共有化します。	・教育相談は計画的に実施することができたが、全教職員の生徒理解が今一歩であった。指導部会や学年会等を使い共通理解を図っていききたい。		B	5 児童生徒 指導	・年2回以上の教育相談活動の継続と全教職員が、生徒に寄り添う指導を行っていきます。・いじめ基本方針に則り未然防止、早期発見・対応に努めていく。		・教育相談はしっかりと行った。1人ひとりの子どもたちとよく話し、生徒理解が進んだ。・学年を中心に未然防止に心掛け、迅速かつ適切な対応が取れた。	B	5 児童生徒 指導	・年2回以上の教育相談活動の継続と全教職員が生徒に寄り添う指導を引き続き行い、生徒理解を深める。・引き続き、いじめ基本方針に則り未然防止、早期発見・対応に努めていく。	個々の生徒と話すことができる貴重な時間となっている。更に朝学活前や休み時間の廊下巡回等を通して生徒理解を深めた。引き続き生徒の声を耳を傾けていく意識の向上を図りたい。いじめについてもアンケートを計画的に行い、未然防止や早期発見に努められていると思われる。	A
	6 特別支援 教育	・特別支援教育について、情報の共有化を図っていく。・個に応じた指導の充実を図るため、生徒一人ひとりの課題に応じた個別の支援計画を作成する。	・特別支援教育に要する生徒の洗い出しはできたが、情報共有化は今一歩である。一人一人のカルテのようなものを作り、子どもの変化を記録し共有化を進めていきたい。		C	6 特別支援 教育	・特別支援教育について、情報の共有化を進めていく。・個に応じた指導の充実を図るため、生徒の個人カルテの作成と指導内容の共有を行っていく。		・職員会議や学年会を通して情報の共有が図れた。個別の支援計画(カルテ)は作成したが、共有化を十分に図れなかった。定着化を図り、指導法の充実を図っていききたい。	B	6 特別支援 教育	・個別の支援計画を活用しての、情報の共有化をはかる。また、指導法についても、研修を深めていく。	情報の共有化を学年を越えて計画的に行うべきだった。課題を持った生徒や保護者に対応するための研修をし、心づもりをしておく必要があると思う。コーディネーターは各学年一人いた方がよい。	B
	7 地域連携	・地域行事に生徒が積極的に参加するとともに、学校施設を地域へ提供します。・学校公開日等にアンケートを実施し、開かれた学校づくりを進めます。	・地域と協力して新たなボランティアとして生徒が進んで参加できた。来年度も地域に呼びかけ進めていきたい。・アンケートの共有化を図ることはできたが、公開が不十分であった。学校便りの構成を考えていきたい。		B	7 地域連携	・地域行事への積極的な参加を引き続き行い、地域と一体になった教育活動を進めていく。・学校公開日にアンケートを実施し、開かれた学校づくりを進めます。		・地域行事への参加などを通して、地域の人々や保護者との関係を深めることができた。アンケートの処理を迅速に行い、学校便り等で公開に努めていく。	B	7 地域連携	・アンケートなどの処理を迅速に行い、情報発信の仕方を工夫して、より信頼される学校作りにつなげる。・地域コーディネーターを活用し、キャリア学習等で地域資源を活用していく。・校内の防災訓練に地域の方にも参加いただき、合同防災訓練への第一歩とする。	アンケートの結果等を保護者に発信する工夫が必要である。地域コーディネーターを職業講話等で活用できた。防災訓練では地域の方の参加ができた。	B
人材育成 組織運営	・授業参観、小中合同授業研究を行い、学習指導や生徒指導の実践力を高めます。・いじめに関する研修を実施します。	・現状の時間の中で精一杯やったと思う。教科会や合同授業研究のテーマを決めるなどして充実させていきたい。・いじめに関する研修は人権・生徒指導研修と兼ねて実施することができた。	B	人材育成 組織運営	・小中授業参観、研究協議や校内授業研や年次研修を活用し、学習指導、生徒指導の実践力を高めていきます。・いじめに関する研修を引き続き実施していきます。	・授業研究、協議は計画的に行い、その成果を授業に生かす先生が多くなってきた。さらに充実させ教員の指導力向上に努めていく。・いじめに関する研修は計画的実施できた。今後も継続していく。	B	人材育成 組織運営	・小中合同授業研、年次研修以外にも相互に授業を参観し、指導法について協議し合う機会を増やす。・人権研修を充実させ、その意識を向上させていく。	共通のテーマをもとに話しあい、異校種の指導を学べた。指導法の研修への意識は向上している。・小中合同の人権研修会など充実した活動ができた。	A			
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・小中合同授業研究会では、研究討議の際に設定した研究テーマを追求する事ができない教科があった。討議では授業者がテーマについて必ず自評すると良い。・確かな学力をつけるために、習熟度別の少人数制や取り出しによる特別支援も考えられる。その場合は保護者の同意や協力、そして職員の割当てが課題である。・豊かな心の教育について、カリキュラムに基づいた道徳指導が望まれるが、職員間でも道徳観の違いがあり、事前にすりあわせをする必要がでてくる			・中学校では50分という限られた時間で授業するため、ワークシートをよく活用する。知識・理解の獲得には有効だが、思考力や表現力等の育成には更に検証が必要である。・中学生の道徳では、読み物資料を題材とし、発言を中心とした授業展開がしにくい傾向にあるが、計画的に講演や視聴覚教材を取り入れ、補充している。道徳に限らず、小学校と連携し、良さを継続できる活動は引き続きしていくと良い。			授業評価を生徒の視点から行っていることは、中学生が学習をより主体的に進めるべきものであることを、指導する側も指導される側も意識することができたと感じた。7月と12月の2度行う中で、英語の12月での評価がのびていることが分かる。この間の指導の工夫、改善が、何らかの効果をもたらした可能性が考えられる。このような部分をより分析し、教科を越えて、指導する上でのヒントにしていくことは大切であると思う。特別支援教育については、該当生徒の共通理解を進めること以上に、取り出しなど個別に支援する際の人員確保は共通の課題である。							
学校関係者 評価結果	・学習指導では、生徒どうしの学び合いによる学習活動について、質問がある場合、教師に多くの生徒が聞くよりも効率的であり、また友人の方が聞きやすい場合もあるので、効果が期待できる。・いじめ防止計画では、いじめに負けない強い心を育てるための志向や環境をつくることも大切である。			一部の保護者から、落ち着いた授業に臨めない生徒がいることに対する学校の姿勢が問われている。学校の方針や取組はより分かりやすく発信する必要がある。保護者によるアンケート調査や学校評価の結果を地域や保護者に公開する方法や機会を工夫することも課題を共通認識し、学校と家庭、地域の協働をはかる一助となる。			授業評価の取組ではアンケートを分析した課題に対し、良く対応できている。個人の職員による配慮にとどまらず、組織的に行うと更に効果がある。保護者アンケートの学習に関する項目で評価が若干低いのは、学校が発信している内容が受け取る側(保護者)に十分届いていない可能性がある。その中で「学校生活は充実している」との回答がほぼ100%であることは評価できる。自己評価が厳しいのではないかと、努力できたことを高く評価することはモチベーションをあげることに繋がる。							
評価結果に 対する 学校の見解	・いじめ防止のために、状況を把握し対応するだけでなく、個々の生徒の自尊感情や自己肯定感を育むことで、思いやりや抵抗力につなげたい。・勉強がわかることも心の安定に作用することを意識して、引き続き学力向上に努めたい。			・学校からの発信について気を配ったり、地域コーディネーターと連携したりすることで、地域に開かれた学校作りを推進し、より保護者の信頼も得ることが大切であると考えます。・授業評価の分析を更に意味のあるものにするため、校内教科会で授業改善について検討し、検証する機会を増やすことが考えられる。			・生徒による授業評価についての取組は継続し、学状の結果も鑑みて分析し、授業改善への検討を教科の垣根を越えて行っていく必要があると考える。また、その取組について保護者に発信する方法を工夫することで、更に信頼感を得られることとなり、様々な教育活動について円滑に進められる基盤を作ることに繋がる。							
学校経営 中期目標 達成状況	・学力学習状況調査および生徒の授業評価の分析を各教科で深め、授業改善、授業力向上に引き続き役立てていく。・自尊感情がさらに育つよう、個々の生徒の良さを発揮できる機会をとりえ、認めていく教育活動の充実を図る。			・学力学習状況調査や授業評価の分析にとどまらず、その結果を検証するための機会を増やし、授業改善につなげる。・引き続き、個々の生徒の良さを認め、生徒に自らの成長を実感させることで、自尊感情、自己肯定感の育成につなげ、更に他の人を大切に人権意識の向上をはかっていく。			個々の生徒や家庭に丁寧な対応や指導を行うため、教職員は研鑽を積みながら、相互に意見交換を行う習慣ができてきている。この良さが、授業改善や自己肯定感を育成する活動においても機能してきており、生徒にとって学校生活が豊かになりつつある。更に充実をはかることで、生徒に達成感、成就感を獲得させることができる。							

当該年度の達成状況： A ... 十分達成 B ... 概ね達成 C ... 努力必要 D ...

当該年度の達成状況： A ... 十分達成 B ... 概ね達成 C ... 努力必要 D ... 改善必要